

1 農業総産出額及び生産農業所得（全国推計）

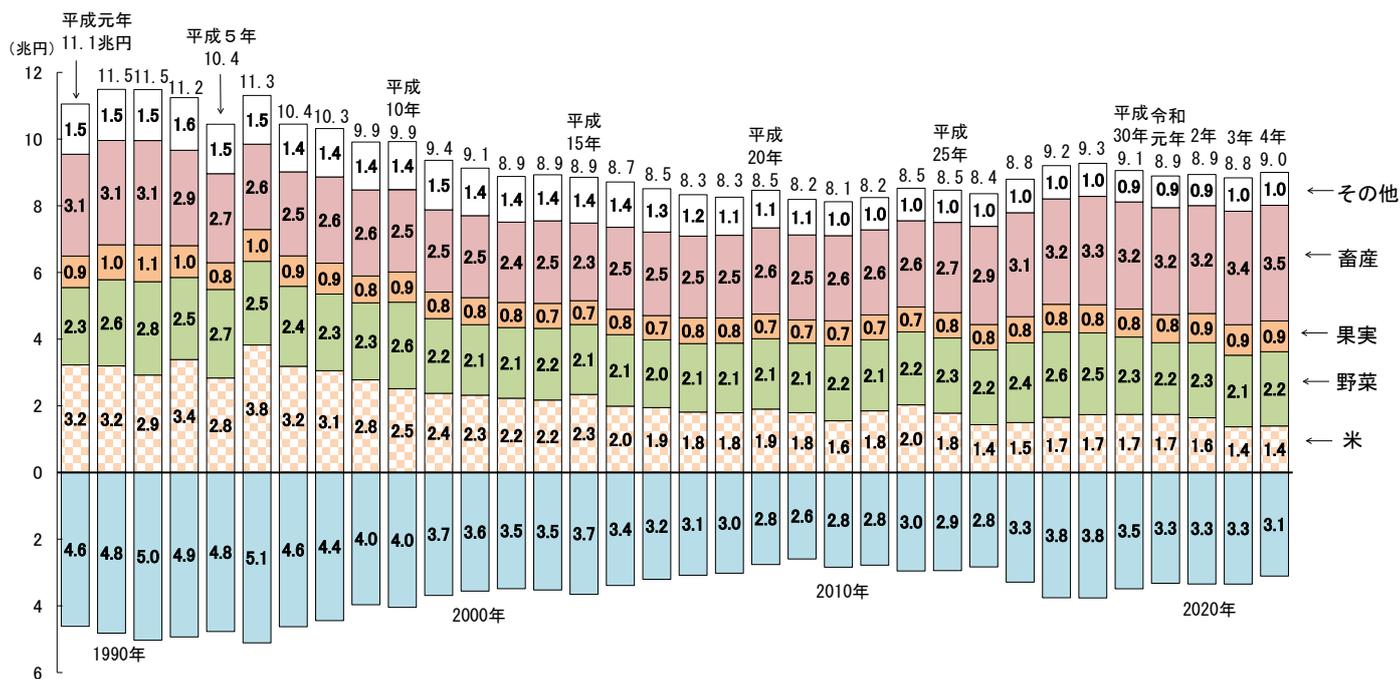
(1) 農業総産出額は、農畜産物の国内外の需要に応じた生産の進展等を背景に、平成27年以降、9兆円前後で推移してきた。

令和4年は、耕種において米や野菜、畜産において豚や鶏の価格が上昇したこと等から、前年に比べ1,604億円（1.8%）増加し、8兆9,984億円となった。

(2) 生産農業所得は、平成27年以降、農業総産出額の増減はあるものの、3兆円台で推移してきた。

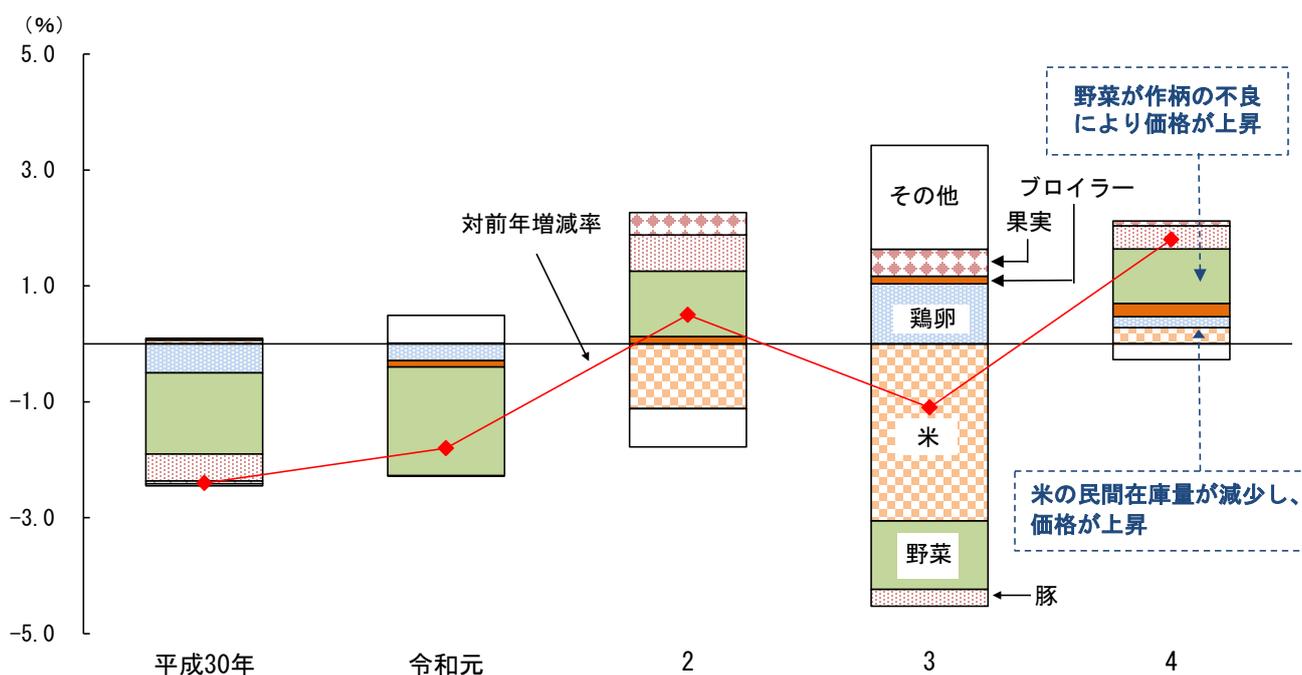
令和4年は、国際的な原料価格の上昇等により、肥料、飼料、光熱動力などの農業生産資材価格が上昇したこと等から、前年に比べ2,434億円（7.3%）減少し、3兆1,044億円となった。

図1 農業総産出額及び生産農業所得の推移



注：表示単位未満を四捨五入しているため、合計値と内訳の計が一致しない場合がある（以下同じ。）。

図2 農業総産出額の対前年増減率と部門別寄与度の推移



【関連データ】

主要農産物の輸出額の推移

区 分	平成30年	令和元	2	3	4	対前年増減率	
						3/2	4/3
	億円	億円	億円	億円	億円	%	%
農林水産物 計	9,068	9,121	9,256	11,626	13,372	25.6	15.0
農産物 計	5,661	5,878	6,552	8,041	8,862	22.7	10.2
うち 米	38	46	53	59	74	11.6	24.4
野菜	105	110	122	130	162	6.6	24.6
うち かんしょ	14	17	21	23	26	13.1	12.6
果実	318	335	323	440	517	36.1	17.6
切花	9	9	8	13	15	65.7	12.7
植木等	120	93	106	69	74	△ 34.3	6.6
緑茶	153	146	162	204	219	26.1	7.2
牛乳	11	14	18	18	20	△ 0.6	12.3
牛肉	247	297	289	537	513	85.9	△ 4.3
豚肉	10	11	18	20	19	14.5	△ 4.8
鶏肉	20	19	21	13	10	△ 37.2	△ 21.7
鳥卵・卵黄	17	24	47	60	86	28.1	42.5

資料：農林水産省輸出・国際局「農林水産物輸出入概況」

注：1 金額は、FOB価格（Free on board、運賃・保険料を含まない価格）である。

2 対前年増減率は、原数値（千円単位）で算出した数値である。

3 米には援助米を含まない。また、野菜・果実には調製品、牛乳には部分脱脂乳、牛肉・豚肉・鶏肉にはくず肉を含む。

4 植木等とは、植木類、盆栽類及び鉢物類である。

【統計結果】

(3) 部門・品目

ア 米

国内の人口減少や多様化する消費者ニーズ等を背景に主食用米の需要は一貫して減少してきている中、令和2年以降、主食用米の取引価格が下落し続けたこと等から、米の産出額は減少傾向で推移してきた。

令和4年は、前年に比べ247億円（1.8%）増加し、1兆3,946億円となった。

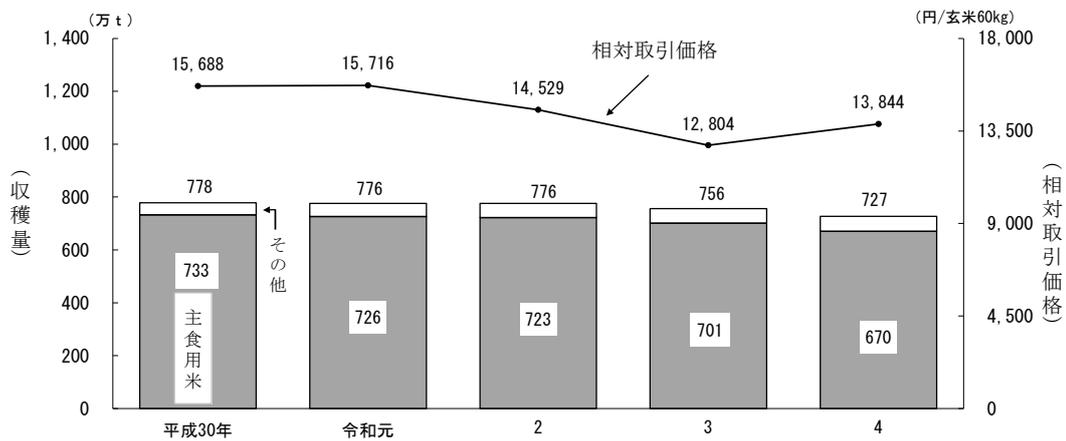
これは、主食用米から他作物への転換等産地・生産者が中心となった需要に応じた生産の進展により、民間在庫量が減少し、主食用米の取引価格が前年から回復したこと等によるものと考えられる。

表1 米の産出額の推移

区分	単位	平成30年	令和元	2	3	4
実額	億円	17,416	17,426	16,431	13,699	13,946
対前年増減率	%	0.3	0.1	△5.7	△16.6	1.8

【関連データ】

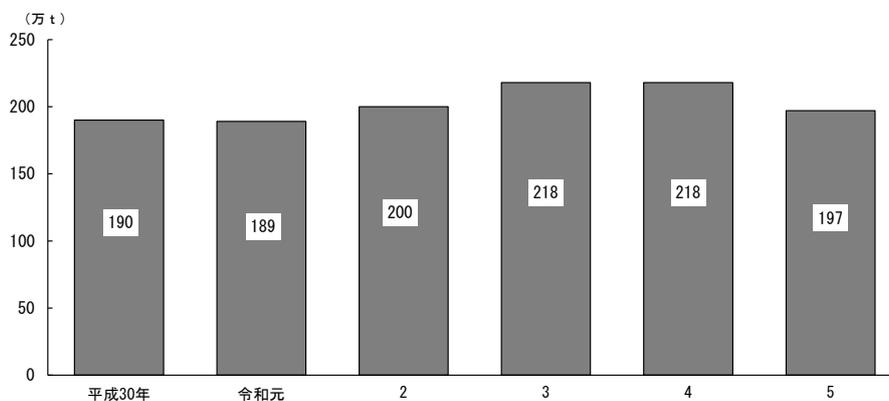
1 米の収穫量及び主食用米の相対取引価格の推移



資料：農林水産省統計部「作物統計調査」及び農林水産省農産局「米穀の取引に関する報告」（米の相対取引価格・数量）

- 注：1 相対取引価格は、当該年産の出回りから翌年10月までの通年平均価格である。
2 収穫量の「その他」は、備蓄米、加工用米、新規需要米等である。

2 民間流通における6月末在庫量の推移



資料：農林水産省農産局「米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針（令和5年10月）」

注：うるち玄米及びもち玄米を合算した値である。

イ いも類

ばれいしょ及びかんしょの作付面積が減少傾向で推移する中、ばれいしょにおいてポテトチップ用等の加工食品向けに国産品を求める実需者ニーズが高まっていることや、かんしょにおいて国内外における焼き芋等としての堅調な需要により、令和元年以降、いも類の産出額は増加傾向で推移してきた。

令和4年は、前年に比べ159億円（6.7%）減少し、2,199億円となった。

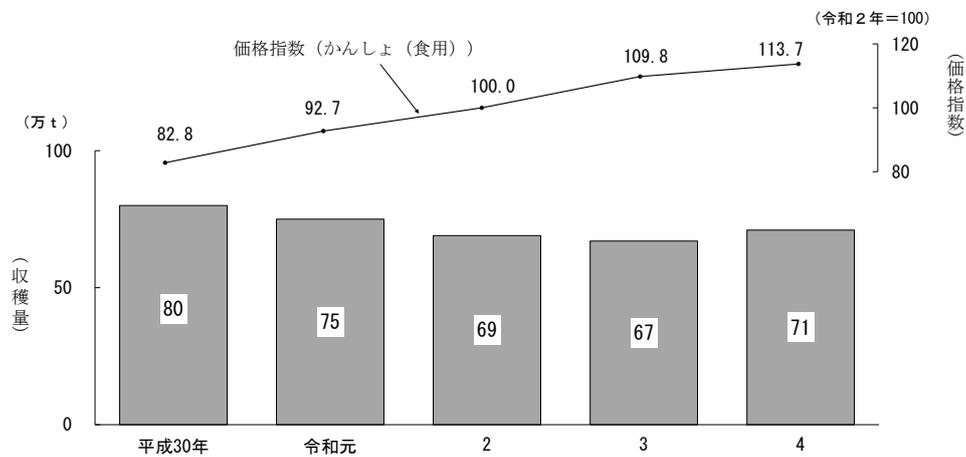
これは、かんしょにおいて引き続き堅調な需要を背景に価格が高水準で推移したものの、ばれいしょにおいて生産量が前年から回復し、価格が低下したこと等が影響したものと考えられる。

表2 いも類の産出額の推移

区分	単位	平成30年	令和元	2	3	4
実額	億円	1,955	1,992	2,370	2,358	2,199
対前年増減率	%	△7.0	1.9	19.0	△0.5	△6.7

【関連データ】

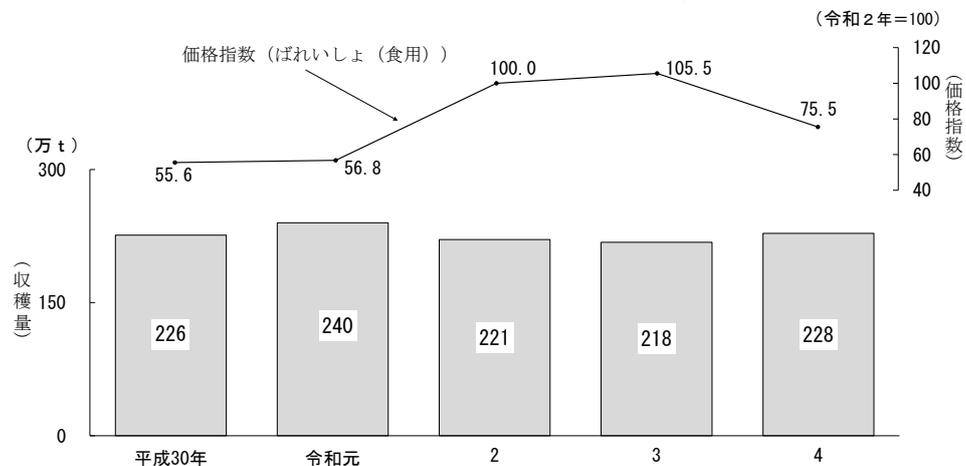
1 かんしょの収穫量及び価格指数の推移



資料：農林水産省統計部「作物統計調査」及び「農作物価統計調査」

注：価格指数の基準時は令和2年（暦年）であり、令和元年以前の価格指数はリンク係数を用いて接続した（以下同じ。）。

2 ばれいしょの収穫量及び価格指数の推移



資料：農林水産省統計部「作物統計調査」及び「農作物価統計調査」

注：価格指数は、「農作物価統計調査」の結果を「作物統計調査」の年産区分で再集計した結果である。

ウ 野菜

食の簡便化、外部化の傾向が強まり、カット野菜等に対するニーズや、加工・業務用野菜に国産野菜を求めるニーズが高まっている一方で、天候により作柄が変動しやすく保存性も乏しいため供給量等が変動しやすい特性もあり、平成30年以降、野菜の産出額は2兆2,000億円前後で推移してきた。

令和4年は、前年に比べ831億円(3.9%)増加し、2兆2,294億円となった。

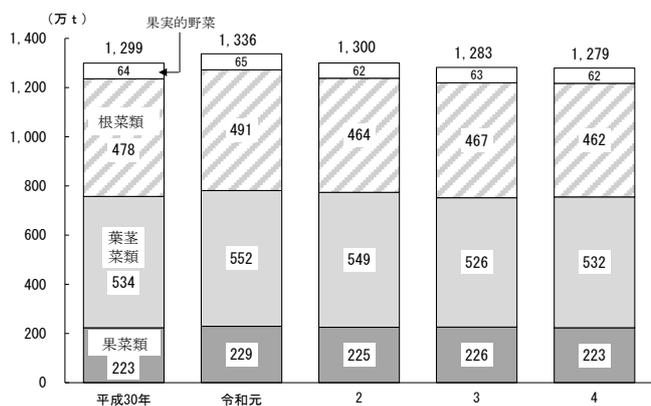
これは、たまねぎにおいて前年からの価格高騰が継続したことや、トマトやにんじん等の品目で8月の北・東日本を中心とした天候不順等の影響により生産量が減少し、価格が前年産に比べて上昇したこと等が寄与したものと考えられる。

表3 野菜の産出額の推移

区分	単位	平成30年	令和元	2	3	4	
実額	億円	23,212	21,515	22,519	21,463	22,294	
対前年増減率	%		△5.3	△7.3	4.7	△4.7	3.9

【関連データ】

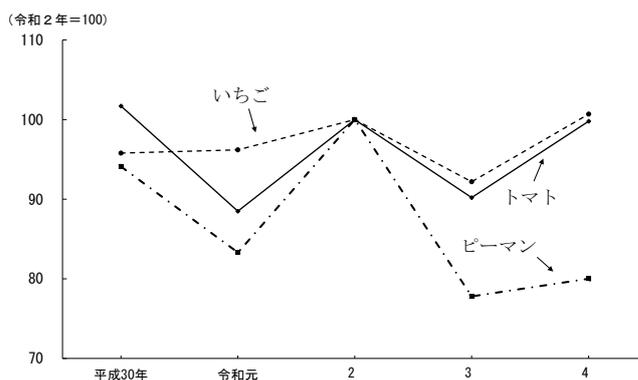
1 野菜の収穫量の推移



資料：農林水産省統計部「作物統計調査」

注：ここでいう野菜は、根菜類、葉茎菜類、果菜類、果実的野菜である。

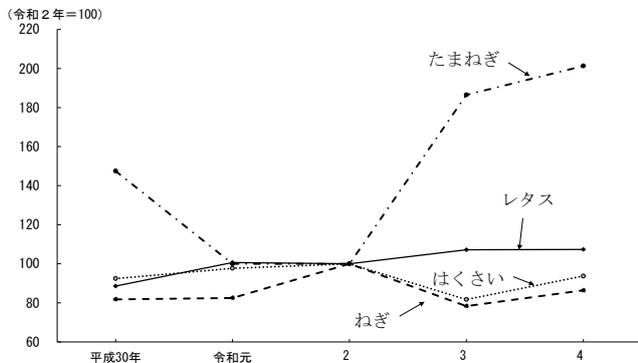
2 果菜類・果実的野菜の価格指数の推移



資料：農林水産省統計部「農業物価統計調査」

注：「農業物価統計調査」の結果を「作物統計調査」の年産区分で再集計した結果である。

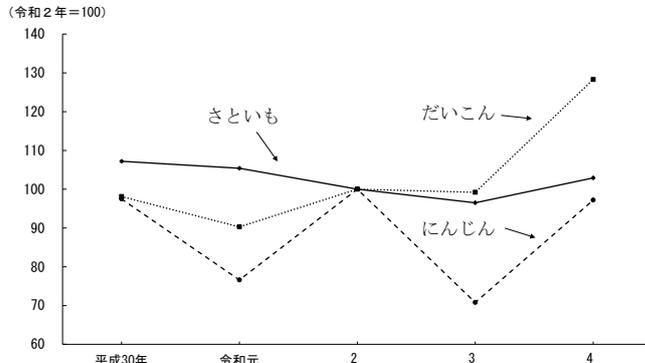
3 葉茎菜類の価格指数の推移



資料：農林水産省統計部「農業物価統計調査」

注：「農業物価統計調査」の結果を「作物統計調査」の年産区分で再集計した結果である。

4 根菜類の価格指数の推移



資料：農林水産省統計部「農業物価統計調査」

注：「農業物価統計調査」の結果を「作物統計調査」の年産区分で再集計した結果である。

エ 果実

国産果実について国内外のニーズが堅調な中、価格が上昇傾向にあり、それに伴って令和2年以降、果実の産出額は増加傾向で推移してきた。

令和4年は、前年に比べ73億円（0.8%）増加し、9,232億円となった。

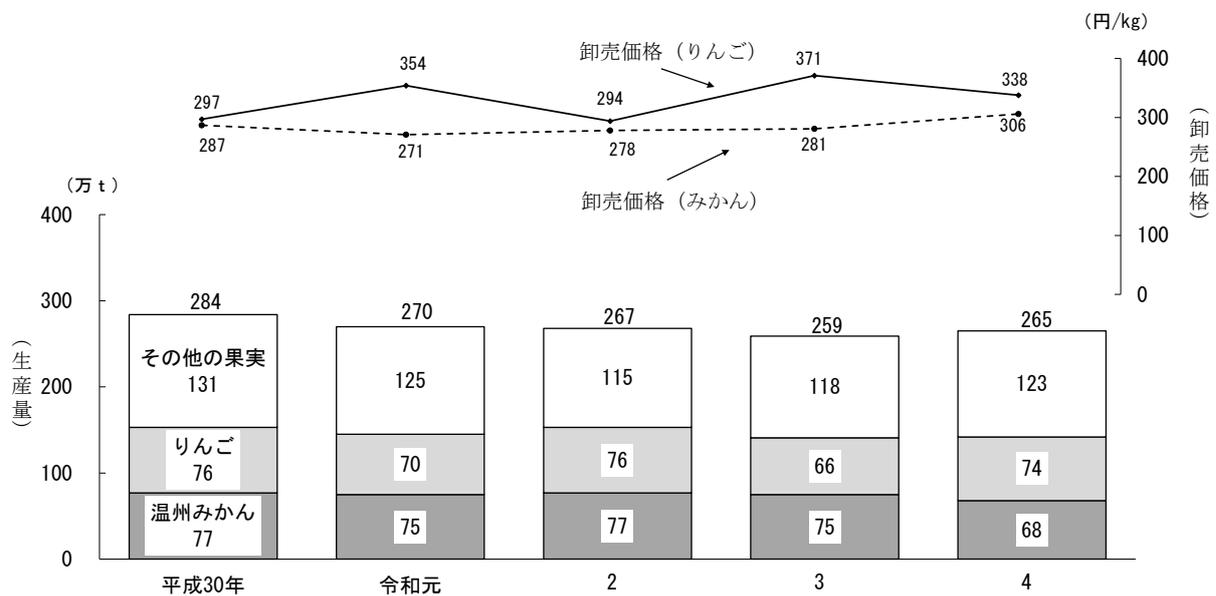
これは、おうとうやもも等において生産時期の天候に恵まれ順調に生育したことにより、生産量が前年産を上回ったこと等が寄与したものと考えられる。

表4 果実の産出額の推移

区分	単位	平成30年	令和元	2	3	4
実額	億円	8,406	8,399	8,741	9,159	9,232
対前年増減率	%	△0.5	△0.1	4.1	4.8	0.8

【関連データ】

1 果実の生産量並びにりんご及びみかんの価格の推移

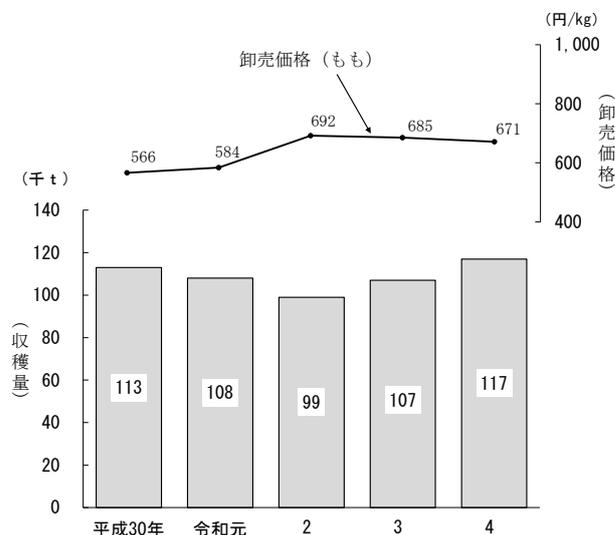


資料：農林水産省政策課「食料需給表」及び農林水産省統計部「青果物卸売市場調査」

注：1 生産量は年度の数値であり、令和4年の生産量は概算値である。

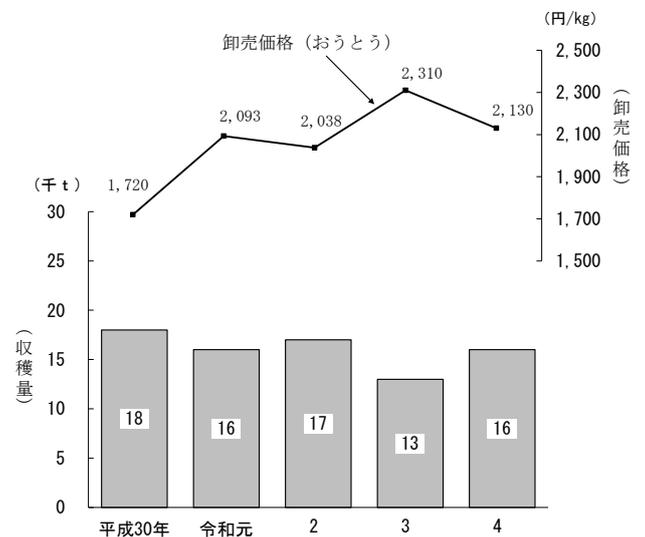
2 みかん及びりんごの価格は、「青果物卸売市場調査」の結果を主な出荷期間で再集計した結果である。

2 ももの収穫量と価格の推移



資料：農林水産省統計部「作物統計調査」及び「青果物卸売市場調査」

3 おうとうの収穫量と価格の推移



資料：農林水産省統計部「作物統計調査」及び「青果物卸売市場調査」

オ 花き

農業従事者の高齢化等による栽培面積の減少を背景に、花き産出額は減少傾向で推移してきた。

令和4年は、前年に比べ186億円（5.6%）増加し、3,492億円となった。

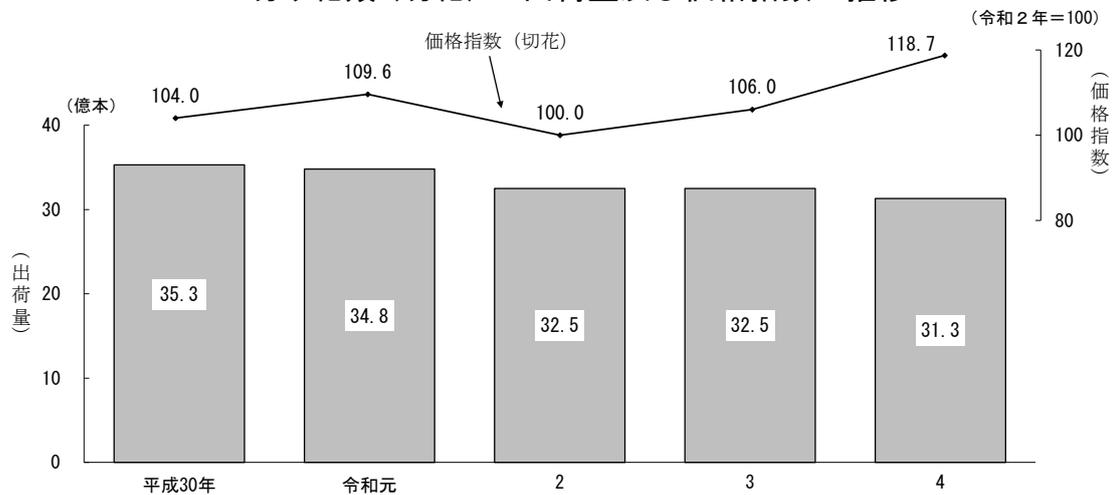
これは、天候不順等の影響により出荷量は減少したものの、新型コロナウイルス感染症対策の緩和によるイベント需要が高まったこと等により、令和3年以降、切り花を中心に価格が上昇に転じたことが寄与したものと考えられる。

表5 花きの産出額の推移

区分	単位	平成30年	令和元	2	3	4
実額	億円	3,327	3,264	3,080	3,306	3,492
対前年増減率	%	△3.2	△1.9	△5.6	7.3	5.6

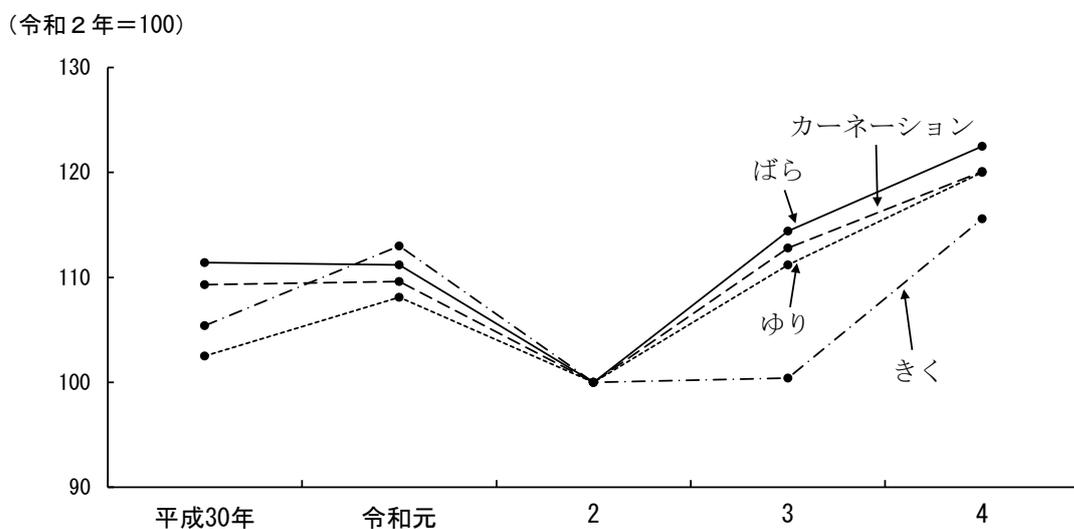
【関連データ】

1 切り花類（切花）の出荷量及び価格指数の推移



資料：農林水産省統計部「作物統計調査」及び「農業物価統計調査」

2 切花（きく、ばら、カーネーション、ゆり）の価格指数の推移



資料：農林水産省統計部「農業物価統計調査」

カ 茶

国内ではリーフ茶の長期的な需要の減少を背景に栽培面積が減少傾向で推移する中、ペットボトル緑茶飲料の消費が堅調に推移していることや、健康志向等の海外ニーズに応じた優良品種等への転換も進んできていることから輸出も年々増加してきており、令和元年以降、茶の産出額は概ね500億円前後で推移してきた。

令和4年は、前年に比べ24億円（4.8%）減少し、471億円となった。

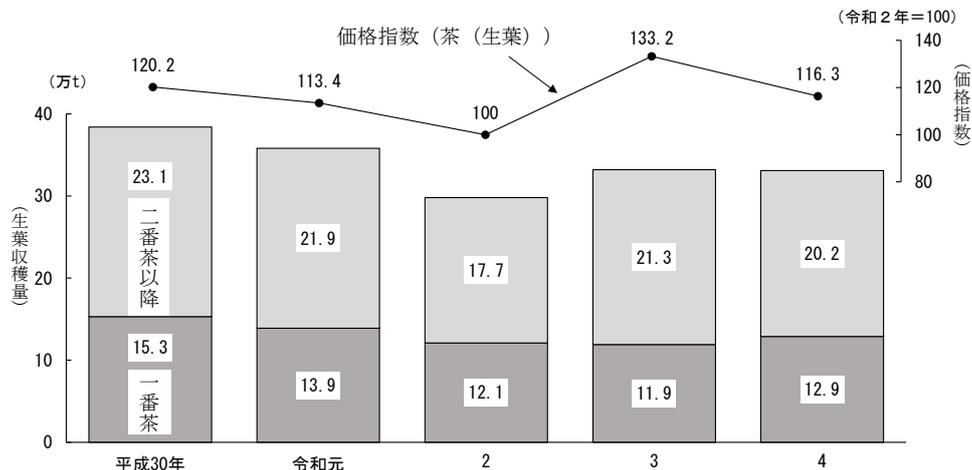
これは、一番茶において、春先の天候に恵まれ生産量が前年産を上回ったものの、一部地域では降雨による摘み遅れにより品質低下が生じたため価格が前年産を下回ったことに加え、二番茶以降において天候不順等の影響により生産量が減少したこと等が影響したものと考えられる。

表6 茶の産出額の推移

区分	単位	平成30年	令和元	2	3	4
実額	億円	615	522	409	495	471
対前年増減率	%	△4.9	△15.1	△21.6	21.0	△4.8

【関連データ】

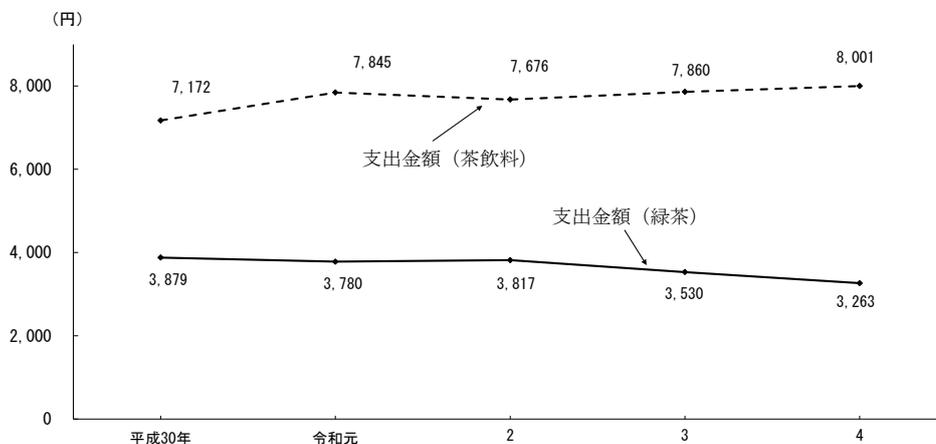
1 茶（生葉）の収穫量及び価格指数の推移



資料：農林水産省統計部「作物統計調査」及び「農業物価統計調査」

注：生葉収穫量は、8府県（埼玉県、静岡県、三重県、京都府、福岡県、熊本県、宮崎県及び鹿児島県）を対象に再集計したものである。

2 緑茶及び茶飲料の1世帯当たり年間の支出金額の推移



資料：総務省統計局「家計調査」（家計収支編）（二人以上の世帯）

注：緑茶は茶葉のみ。茶飲料は液体の緑茶の他、ウーロン茶、紅茶及び麦茶を含む。

キ 肉用牛

生産基盤の強化が推進される中、和牛改良の進展や飼養管理技術の向上等により高品質な牛肉の割合が増加してきたことや、牛肉の輸出も増加傾向で推移しており、平成28年以降、肉用牛の産出額は7,000億円を超えて推移してきた。

令和4年は、前年に比べ25億円（0.3%）増加し、8,257億円となった。

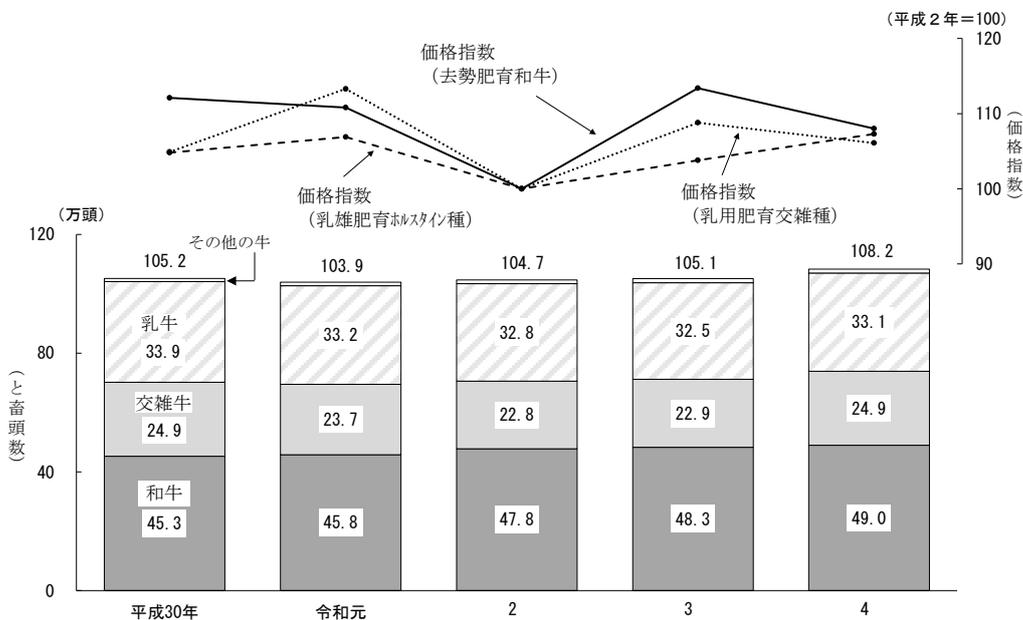
これは、生産基盤の強化に伴い、引き続き和牛の生産頭数が増加した一方で、和牛肉の需要が軟調に推移し価格が低下したことによるものと考えられる。

表7 肉用牛の産出額の推移

区分	単位	平成30年	令和元	2	3	4
実額	億円	7,619	7,880	7,385	8,232	8,257
対前年増減率	%	4.2	3.4	△6.3	11.5	0.3

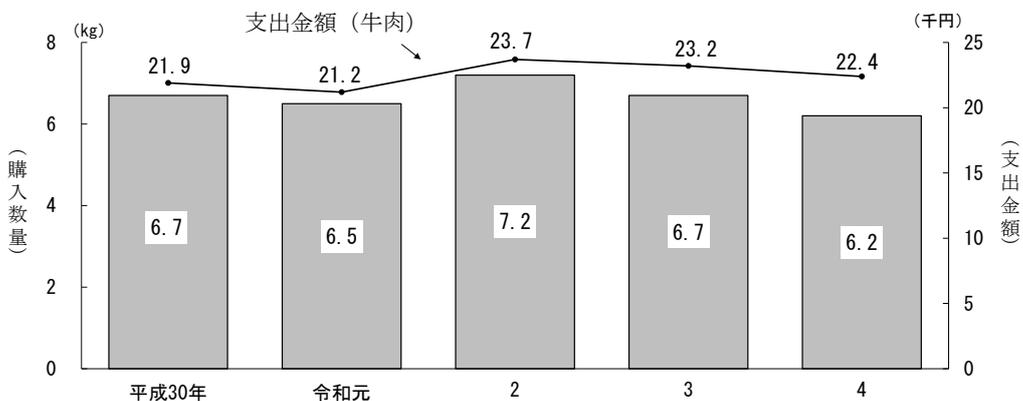
【関連データ】

1 肉用牛のと畜頭数と価格指数の推移



資料：農林水産省統計部「畜産物流通調査（と畜場統計調査）」及び「農作物価統計」
注：と畜頭数は、成牛の数値である。

2 牛肉の1世帯当たり年間の購入数量及び支出金額の推移



資料：総務省統計局「家計調査」（家計収支編）（二人以上の世帯）

ク 生乳

生産基盤強化の進展を背景に、生乳生産量は平成30年以降増加傾向で推移しており、それに伴い生乳の産出額は増加傾向で推移してきた。

令和4年は、前年に比べ55億円（0.7%）増加し、7,916億円となった。

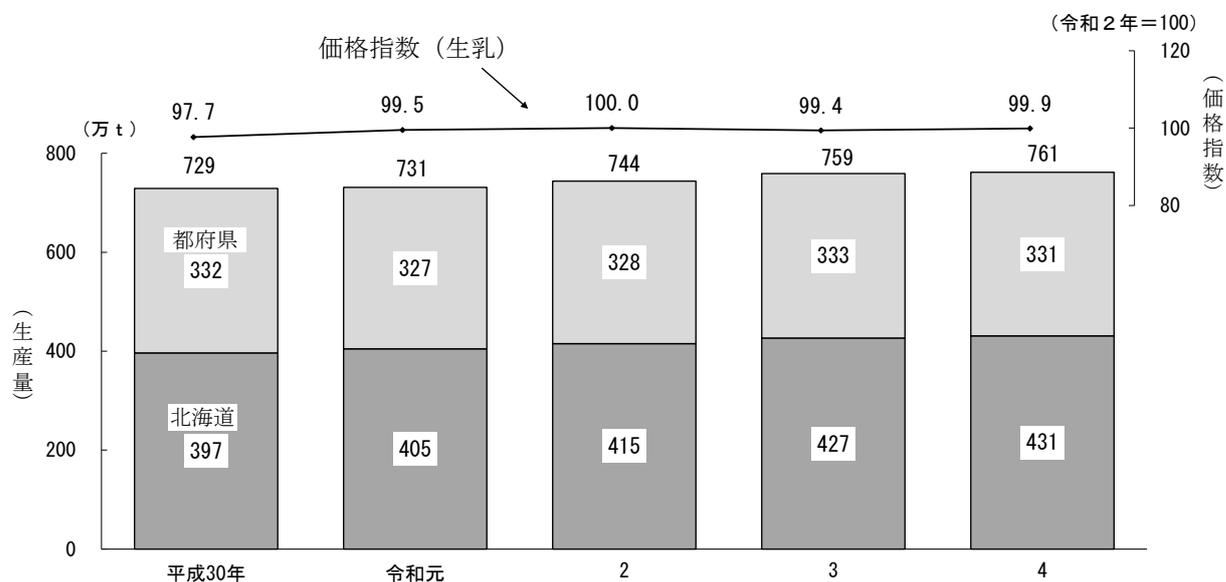
これは、需給バランスの改善に向けた生産抑制により生産量の増加は鈍化しているものの、飲用等向けの取引価格が上昇したことが寄与したものと考えられる。

表8 生乳の産出額の推移

区分	単位	平成30年	令和元	2	3	4
実額	億円	7,474	7,628	7,797	7,861	7,916
対前年増減率	%	1.0	2.1	2.2	0.8	0.7

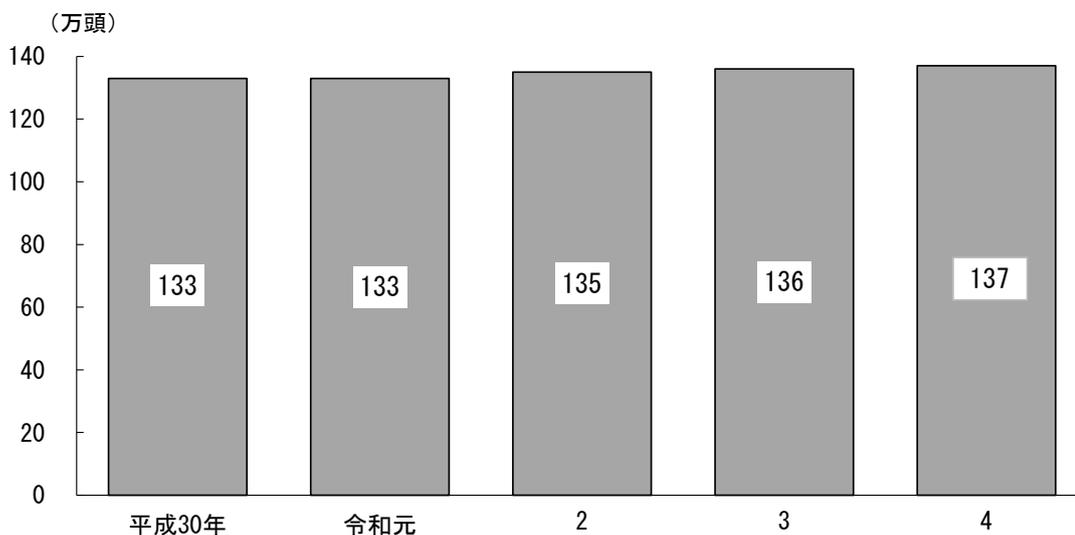
【関連データ】

1 生乳の生産量及び価格指数の推移



資料：農林水産省統計部「牛乳乳製品統計調査」及び「農作物価統計調査」

2 乳用牛飼養頭数の推移



資料：農林水産省統計部「畜産統計調査」

ケ 豚

飼養管理技術の向上等により豚の出荷頭数は増加傾向で推移する中、巣ごもりや節約志向の高まりによる需要の増加で豚肉価格は堅調に推移してきており、平成26年以降、豚の産出額は6,000億円台で推移してきた。

令和4年は、前年に比べ353億円（5.6%）増加し、6,713億円となった。

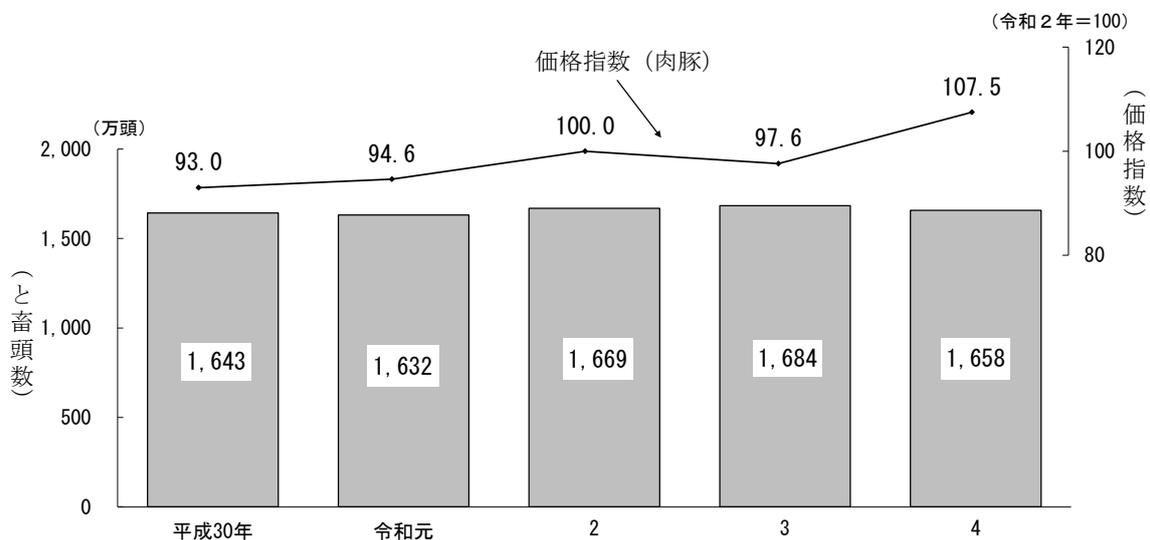
これは、出荷頭数は前年を下回ったものの、高騰する輸入品の代替需要や節約志向の高まりによる需要を背景に価格が上昇したこと等が寄与したものと考えられる。

表9 豚の産出額の推移

区分	単位	平成30年	令和元	2	3	4
実額	億円	6,062	6,064	6,619	6,360	6,713
対前年増減率	%	△6.7	0.0	9.2	△3.9	5.6

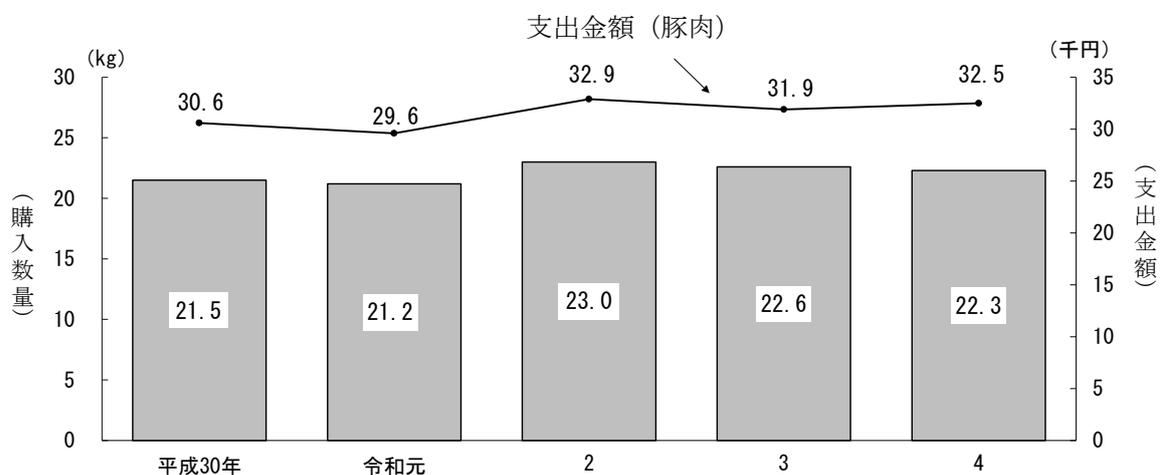
【関連データ】

1 豚（肉豚）のと畜頭数及び価格指数の推移



資料：農林水産省統計部「畜産物流通調査（と畜場統計調査）」及び「農業物価統計調査」

2 豚肉の1世帯当たり年間の購入数量及び支出金額の推移



資料：総務省統計局「家計調査」（家計収支編）（二人以上の世帯）

コ 鶏卵

経営の大規模化の進展等を背景に生産量は260万トン前後で推移する中、堅調な需要により、平成26年以降、鶏卵の産出額は5,000億円前後で推移してきた。

令和4年は、前年に比べ142億円(2.6%)増加し、5,612億円となった。

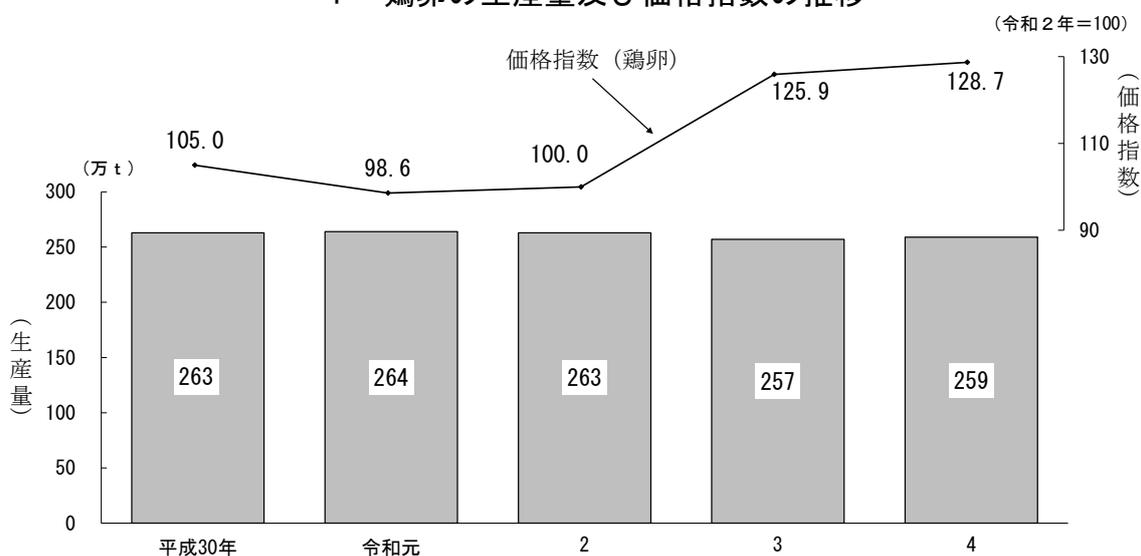
これは、飼料価格等の生産コスト上昇に加え令和4年10月以降に発生した鳥インフルエンザの影響により、生産量が減少し、価格が上昇したこと等が寄与したものと考えられる。

表10 鶏卵の産出額の推移

区分	単位	平成30年	令和元	2	3	4
実額	億円	4,812	4,549	4,546	5,470	5,612
対前年増減率	%	△8.8	△5.5	△0.1	20.3	2.6

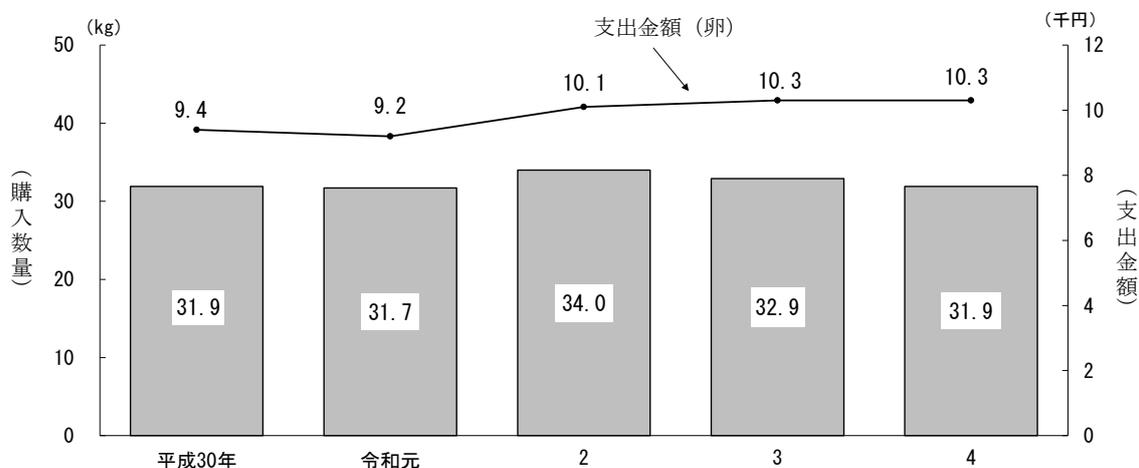
【関連データ】

1 鶏卵の生産量及び価格指数の推移



資料：農林水産省統計部「畜産物流通調査(鶏卵流通統計調査)」及び「農業物価統計調査」

2 卵の1世帯当たり年間の購入数量及び支出金額の推移



資料：総務省統計局「家計調査」(家計収支編)(二人以上の世帯)

注：卵は、鳥類の卵。加工品、缶詰、瓶詰及び破卵も含む。

サブロイラー

経営の大規模化の進展等を背景とした生産量の増加や、消費者の根強い国産志向に加え、健康志向と簡便性を求める消費者ニーズに対応したむね肉の加工品（サラダチキン）等の需要が堅調であること等から、平成29年以降、ブロイラーの産出額は3,500億円を超えて推移してきた。

令和4年は、前年に比べ200億円（5.3%）増加し、3,940億円となった。

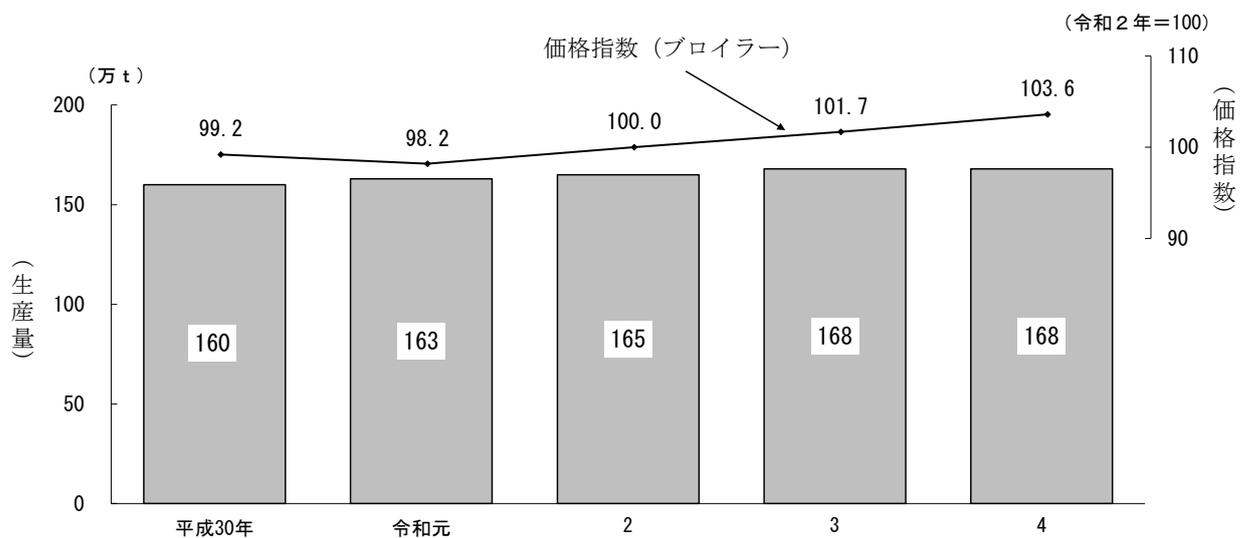
これは、国内生産量は前年並みとなったものの、安定的な需要が継続する中、価格が高水準となった輸入鶏肉の代替需要も重なり、価格が上昇したこと等が寄与したものと考えられる。

表11 ブロイラーの産出額の推移

区分	単位	平成30年	令和元	2	3	4
実額	億円	3,608	3,510	3,621	3,740	3,940
対前年増減率	%	0.8	△2.7	3.2	3.3	5.3

【関連データ】

ブロイラー（鶏肉）の生産量及び価格指数の推移



資料：農林水産省政策課「食料需給表」及び農林水産省統計部「農作物価統計調査」

注：生産量は年度の数値であり、令和4年は概算値である。

(4) 生産農業所得

生産農業所得は、平成 27 年以降、農業総産出額の増減はあるものの、3 兆円台で推移してきた。

令和 4 年は、前年に比べ 2,434 億円（7.3%）減少し、3 兆 1,044 億円となった。

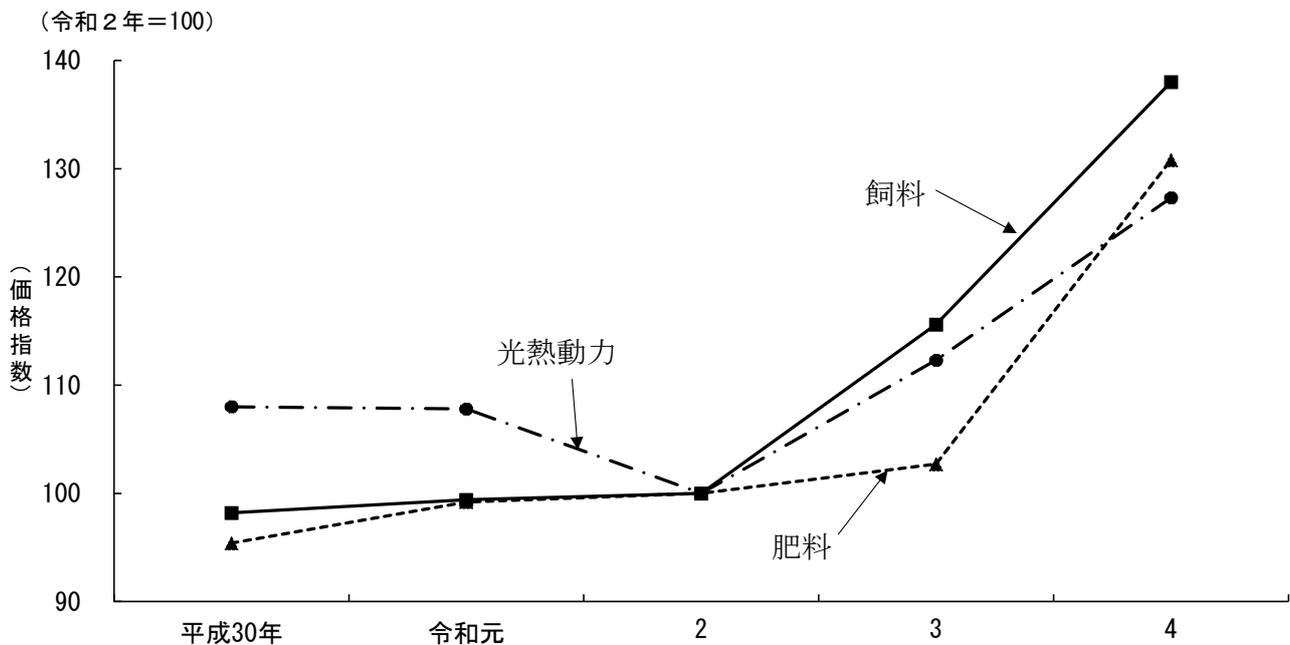
これは、国際的な原料価格の上昇等により、肥料、飼料、光熱動力などの農業生産資材価格が上昇したこと等が影響したものと考えられる。

表 12 生産農業所得の推移

区分	単位	平成30年	令和元	2	3	4
実額	億円	34,873	33,215	33,433	33,478	31,044
対前年増減率	%	△7.3	△4.8	0.7	0.1	△7.3

【関連データ】

主な農業生産資材の価格指数の推移



資料：農林水産省統計部「農業物価統計調査」